

公 共

# 設 計 図 書

(特記仕様書・位置図・工事数量総括表)

2025 年度施行

川筋地区物揚場3号泊地浚渫工事

---

網走市



特 記 仕 様 書

## 特記仕様書

- 20 一般事項
- 01 適用
- 01 共通仕様書

当該工事は、『北海道建設部土木工事共通仕様書』（以下「土木工事共通仕様書」という。）に基づき施工すること。

- 02 土木工事積算基準等

- 1 当該工事の設計図書は、北海道建設部が制定した次の積算基準等に基づき作成している。

- (1) 一般土木工事

- 「土木工事積算要領」、「土木工事積算基準」、「土木工事工種体系化の手引き」

- (2) 漁港工事

- 「漁港関係工事積算基準」、「漁港関係工事工種体系化の手引き・数量算出要領」

- 2 「土木工事積算基準」及び「漁港関係工事積算基準」において定めている諸基準に基づき次のとおり扱っている。

- (1) 機械施工と人力施工等の施工方法や区分は設計図面等から判断し、機械施工が困難である場合を除き、機械施工を標準として積算している。

- (2) 特記仕様書等で別途明示している場合を除き、各基準において定めている標準工法・標準機種で積算している。

- (3) 上記(1)(2)については、受注者の任意施工を拘束するものではない。

- ただし、現場条件等がこれにより難しい場合には、必要に応じて設計変更する。

- 3 「土木工事工種体系化の手引き」、「漁港関係工事工種体系化の手引き」において定めている事

- 項を、設計図書の規格・摘要欄に明示しているが現場条件等に差異が生じた場合には、設計変更の対象とする。

- 4 当該工事の数量算出書は、北海道建設部が制定した次の土木工事数量算出要領等に基づき作成している。

- (1) 一般土木工事

- 「土木工事数量算出要領」

- (2) 漁港工事

- 「漁港関係工事工種体系化の手引き・数量算出要領」

- 03 概数

- 1 「概数として扱う数量一覧表」に示した数量は概数である。概数として扱う事項の施工に当たっては、施工後でなければ数量の確認ができない場合を除き、現地調査終了後速やかに工事監督員と協議し、数量の確定を行い着手すること。

## 特記仕様書

- 2 概数の確定により数量の変更が生じた場合には、設計変更により処理する。  
なお、設計に対して過大な出来形数量に変更するものではないことに留意すること。
- 3 「概数として扱う数量一覧表」で示した仮設工の工事数量は、標準的な工法により算出したものであるため、取り合い等によって新たに必要となる項目についても概数として扱う場合がある。
- 4 当該工事において、設計変更図書の作成（設計変更図面の作成及び工事数量の算出）を受注者に行わせることがある。
- 5 当該工事は、現地測量を行った結果に基づき工事監督員と協議して数量を確定する。

### 08 現場環境改善(選択) 漁港

- 1 現場環境改善は、周辺住民の生活環境への配慮及び一般住民への建設事業の広報活動、現場労働者の作業環境の改善を行うために実施することを目的とする。
- 2 現場環境改善の実施内容は、次の各項目（仮設費関係、安全費関係、営繕費関係、役務費関係、防災・危機管理関係、担い手育成関係）から選択することとし、具体的な実施内容や実施時期については、施工計画書を提出する時に工事監督員と協議すること。
  - (1) 仮設費関係
    - (1) 垂れ幕（横断幕）
    - (2) 工事看板（説明板・案内板・PR看板）
    - (3) 緑化・花壇（椅子・ベンチ含む）
    - (4) ライトアップ
  - (2) 安全費関係
    - (1) 器具美装化（バリケード）
    - (2) 器具美装化（転落防止柵（足場・安全ネット））
    - (3) 器具美装化（工事標識）
    - (4) 器具美装化（安全標識）
    - (5) 器具美装化（照明）
    - (6) 器具美装化（安全機器（カラーコーン・回転灯））
    - (7) 器具美装化（安全具（救命胴衣・救命浮環・ヘルメット・安全靴・安全帯・消火器））
    - (8) 清掃費

## 特記仕様書

- (9) 熱中症予防
  - (10) 防寒対策
  - (3) 営繕費関係
    - (1) 設備美装化（現場事務所・現場休憩所・作業員宿舎）
    - (2) インフォメーション施設の設置及び管理運営
    - (3) 行事の開催
  - (4) 役務関係
    - (1) 現場環境改善に係る土地借上げ及び道路等の占用に要する費用
  - (5) 防災・危機管理関係
    - (1) 防災訓練（地震・台風等の自然災害に対する訓練）に使用する作業船・重機の燃料費
    - (2) 防災訓練（地震・台風等の自然災害に対する訓練）に使用する作業船・重機の回航えい航費・運搬費
    - (3) 防災訓練（地震・台風等の自然災害に対する訓練）に使用する資機材の費用
  - (6) 担い手育成関係
    - (1) 現場見学会の開催・見学用設備
    - (2) パンフレット・工法説明ビデオ
    - (3) 出張講座の資料作成
- 3 工事完了時には、現場環境改善の実施状況が確認できる写真を提出すること。

21 工程関係  
07 協議による条件  
02 漁組協議による制約（完成時期）  
川筋地区の浚渫工は、網走漁業協働組合との協議により2025年7月1日から7月末までの早い期間にて完了すること。（施工日数10日前後）

15 月単位の週休2日工事  
02 月単位の週休2日工事【現場閉所】の実施について【漁港工事】

1. 本工事は、月単位の「週休2日工事」の対象工事である。
2. 受注者が月単位の週休2日の施工を行う希望がある場合、工事着手前に発注者に対して月単位の週休2日に取り組む旨の協議を行い、協議が整った場合に月単位の週休2日での施工を行う工事である。なお、月単位の週休2日が達成できない場合においても通期の週休2日による施工に努めること。
3. 月単位の週休2日とは、対象期間の全ての月において、土日・祝日に関わらず、4週8休以上の現場閉所を行ったと認められる状況をいう。

## 特記仕様書

対象期間は、契約期間内において工事着手日から工事完成日までの期間をいう。なお、年末年始6日間及び夏期休暇3日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間、発注者があらかじめ対象外としている内容に該当する期間、受注者の責によらず現場作業を余儀なくされる期間などは対象期間に含まない。工事契約後、週休2日対象期間としていた期間において、受注者の責によらず現場作業を余儀なくされる期間が生じる場合は、受発注者間で協議して現場閉所による週休2日の対象外とする作業と期間を決定するものとする。

4. 現場閉所とは、巡回パトロールや保守点検等、現場管理上必要な作業を行う場合を除き、現場が閉所された状態をいう。なお、降雨、降雪などによる予定外の現場閉所日についても現場閉所日に含めるものとする。
5. 月単位の4週8休とは、対象期間内の全ての月毎に現場閉所日数の割合（以下、「現場閉所率」）が28.5%（8日／28日）以上の水準に達する状態をいう。ただし、暦上の土曜日・日曜日の閉所では28.5%に満たない月は、その月の土曜日・日曜日の合計日数以上に閉所を行っている場合に、4週8休（28.5%）以上を達成しているものとみなす。  
通期の4週8休とは、対象期間内の現場閉所率が、28.5%（8日／28日）の水準の状態をいう。
6. 週休2日の確保の取組は、将来の担い手確保、入職しやすい環境づくりを目指すものであることから、週休2日による施工を実施する受注者は、その趣旨に沿った休日の取得に努めるものとする。
7. 週休2日の実施の確認方法は、次によるものとする。
  - 1) 受注者は、週休2日の計画工程表を施工計画書に添付し発注者へ提出する。
  - 2) 受注者は、実施結果を発注者へ報告する。
8. 週休2日の実施状況について、発注者が必要に応じて聞き取り等の確認を行う場合には、受注者は協力するものとする。
9. 現場閉所の達成状況を確認した結果、月単位の4週8休に満たない場合、補正を減ずる設計変更を行う。同一工事において海上作業と陸上作業が混在する工事の場合は、それぞれの週休2日確認対象期間に対する現場閉所日数を合算し算出する。
  - 1) 現場の閉所状況  
月単位の4週8休以上
  - 2) 補正方法  
当初予定価格から月単位の4週8休以上の達成を前提とした補正係数を労務費、機械経費（賃料）、共通仮設費率、現場管理費率及び市場単価に乘じ、現場閉所の達成状況を確認した結果、月単位の4週8休に満たない場合、補正の対象としない。
10. 「週休2日工事」について、受注者を対象としたアンケート調査に協力するものとする。  
アンケートフォームURL:[https://www2.pref.hokkaido.lg.jp/kn/ksk/syuukyuufutuka\\_ssl/](https://www2.pref.hokkaido.lg.jp/kn/ksk/syuukyuufutuka_ssl/)
11. 週休2日の実施計画書提出後、当該工事の全体工期については、影響はでないものの、一部の施工内容・箇所に変更があり、工期内の期限を設ける必要がある場合は、対象期間外と出来る場合があるので、受発注者間で協議を行うこと。

25 工事用道路関係  
03 船舶経路関係  
01 作業船の避難

## 特記仕様書

船舶回航費には作業船の避難えい航費（斜里港から網走港）も計上しているが、避難回数等に変更が生じた場合は工事監督員と協議すること。

### 03 作業船団の回航・えい航

作業船団については網走港から斜里港までの往復費用を計上している。

なお、作業船の在港状況に変更がある場合は、原則として契約後最初に行う施工計画書の立案時に基地港の変更について、工事監督員と協議すること。

この際、基地港に当該作業船が在港しているが、受注者の都合により他船舶を遠距離から回航する場合は変更の対象としない。

また、工事着手後に復路について変更する必要がある場合は次の措置を講じる。

- 1 本港に工事終了後も係留する場合は、片道費用を減額する。
- 2 帰港先が前設計より近距離となる場合は、その距離に応じて変更する。
- 3 帰港先が前設計より遠距離となる場合は、変更しない。

注意：回航・えい航の実績確認のため、写真資料および基地港・当該港での入・出港証明書、計4通を提出すること。

なお、入・出港証明書が取得できない場合は、工事監督員と協議すること。

### 27 建設副産物・廃棄物関係

#### 01 発生土の工事間利用・仮置条件

#### 01 発生土の搬出先

当該工事の浚渫土は、別紙位置図土場にて改良後、大曲湖畔園地（片道運搬距離6.4km）に搬出すること。

### 30 その他

#### 19 その他

#### 01 設計図書に明示のない取扱い

設計図書に定めのない事象が生じた場合は、工事監督員と別途協議をすることとし、必要に応じて設計変更を行う。